

2000年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、極渦は成層圏までつながるカラ海付近の中心とカナダ北部に分かれて存在した。大西洋東部からヨーロッパ西部と韓国から日本にかけて、対流圏に順圧的な負偏差が見られた。一方、大西洋西部からグリーンランド、ロシア西部から西シベリア、東シベリア付近、アメリカ合衆国では正偏差となった。亜熱帯ジェットはアフリカ北部と、東アジアから太平洋で平年より強く、日本付近では平年に比べてやや南偏していた。太平洋東部、大西洋、ユーラシア上では、流れ場の大きな蛇行やブロッキング現象の発生に伴って分流通向が顕著であった。

850 hPa 高度および風ベクトル分布図では、東部太平洋熱帯域の南半球側では低気圧性偏差循環が見られ、赤道付近は弱いながら西風偏差となった。南アメリカ北部からギニア湾付近にかけて南北両半球で低気圧性偏差循環が分布し、赤道付近は弱い西風偏差となった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、大規模発散域の中心はアラフラ海にあり、平年に比べて約30度西偏していた。南アメリカ北部の発散中心は平年

に比べて約15度東偏し、50°W の赤道付近に位置した。

SOI (南方振動指数) は+1.4 (暫定値) となった。

世界の天候

①東シベリアの高温

②中国東部の高温・少雨

中国のウーハン (武漢) で23 mm (17%)。

③東南アジアの多雨

マレーシアのコタ・バルで355 mm (369%)。

④インドからヨーロッパ東部の高温

インドのインドールで32.2°C (+2.4°C)。

⑤トルコの多雨

⑥ヨーロッパ西部の多雨

⑦アフリカ西部の高温

⑧アフリカ東部の少雨

タンザニアのムワンザで68 mm (22%)。

エチオピアなどアフリカ東部では長引く干ばつによる深刻な被害が引き続き報じられた。

⑨南アメリカ北部の多雨

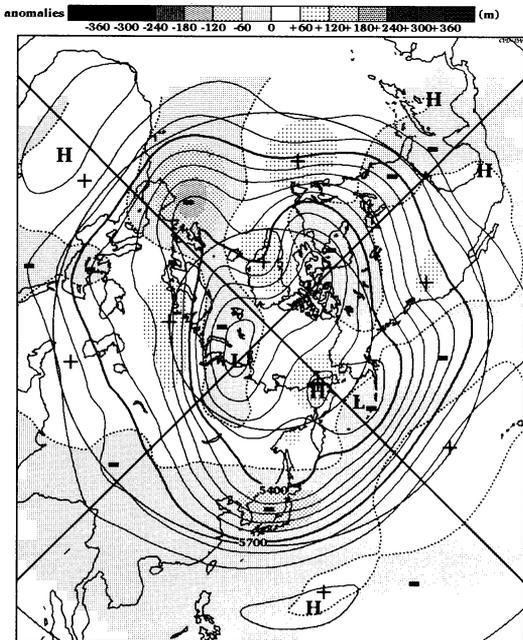
⑩アルゼンチン北部の多雨

アルゼンチンのパラナで393 mm (394%)。

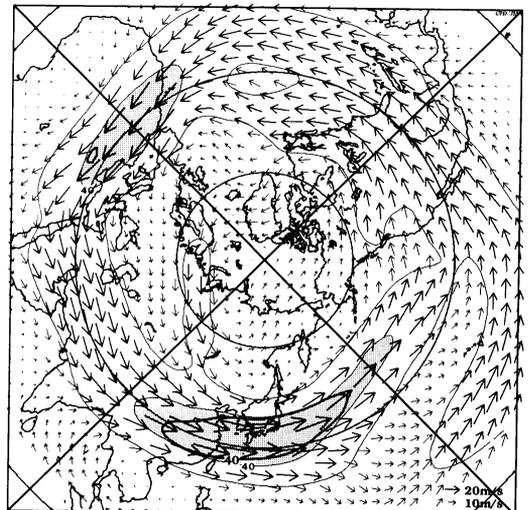
アルゼンチンやエクアドルでは大雨による洪水や土砂崩れの被害が報じられた。

⑪オーストラリア北部の多雨

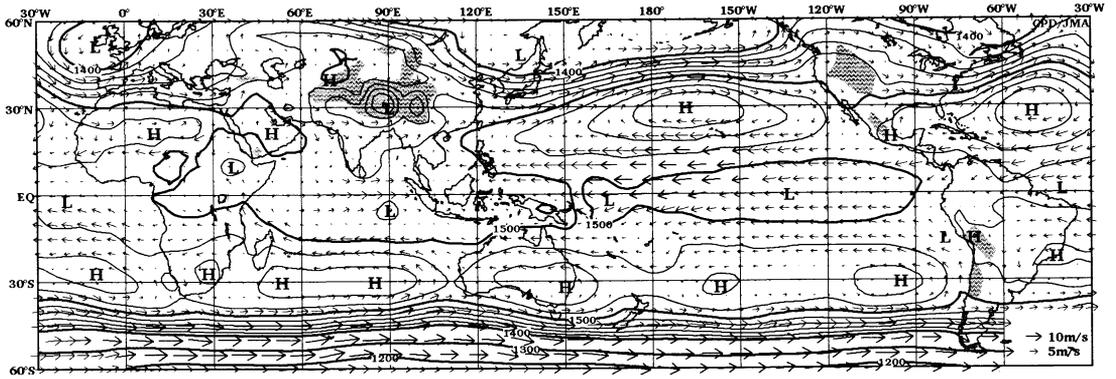
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 兼城 薫)



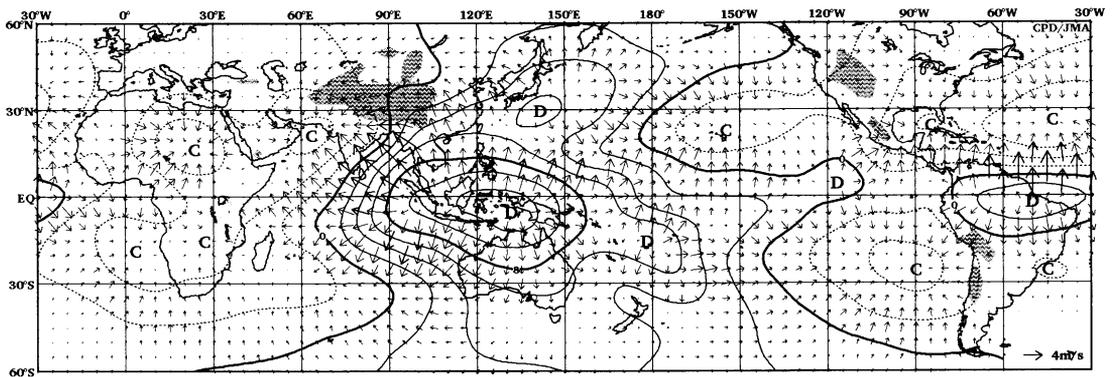
2000年4月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。



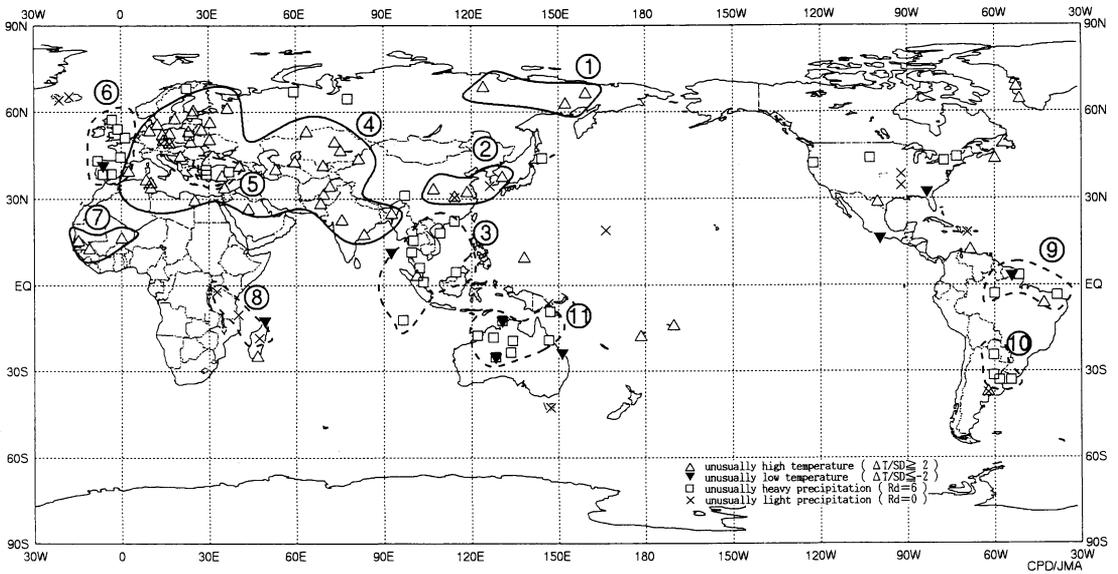
2000年4月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は平年で40 m/s以上. 平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



2000年4月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2000年4月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2000年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0．図中の番号は本文中の番号と対応している．